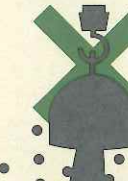


Safety Soil

製品取扱い上の注意点

1. 吊り上げの際、吊りロープまたは吊りベルトはフックに正しく掛け、片吊りはしないでください。急な吊り上げ吊り下ろし、横引きはしないでください。
2. 排出の際、吊り上げた製品の下に入って開口しないでください。開口部が地面に触れないように吊り上げて排出してください。内容物は残留しないよう全部排出してください。

吊上げる場合	排出する場合	保管する場合
 吊りロープのフックを正しく掛け、片吊りはやめてください。	 吊り上げた製品の下に入らないでください。	 包材を開放のまま保管しないでください。
 急な吊り上げ、吊り下ろし、横引きはしないでください。	 発塵防止のためできるだけ低い位置で排出してください。	 仮貯蔵の際、水が浸入しないようにして貯蔵してください。
 ゆっくり動かす。	 内容物は残留しないよう全量排出してください。	

●販売に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

総代理店

Safety & Ecology

YEBISU

株式会社 恵比寿石膏

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号

新橋町ビル別館第1 1F

Tel.03-4446-1080

Fax.03-6868-4300

●製造に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。



Sanyo

株式会社 サンヨー

〒540-0037 大阪府大阪市中央区内平野町2丁目1番6号

Tel.06-6910-7077 Fax.06-6910-7078

※NETISについての新技術提案については下記のホームページで情報を収集してください。

<http://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/develop/index.html>

問い合わせ先：国土交通省 近畿地方整備局
近畿技術事務局

2018.04.300M

Safety Soil

非セメント系中性固化材

セーフティーソイル



株式会社 サンヨー

いつみてもやさしい青空大好き。

セーフティーソイルは 石膏を原料に製品化された 非セメント系 中性固化材です。

土質改良に用いる固化材は、セメントや石灰を主原料とした高アルカリ領域の商品が主流ですが、近年では建設発生土の有効活用の観点から中性域における固化材のニーズが高まり水質や植生に配慮した土質改良が求められてきました。弊社では石膏を主原料とした中性固化材を開発しました。あらゆる泥土に対応いたします。

特徴

環境に影響を及ぼす物質を含まない

非セメント系固化材で問題になっています六価クロムをはじめとする有害な重金属など、環境に影響を及ぼす物質が含まれておらず、処理後の土壌からも有害成分が溶出しません。

臭気抑制

従来の固形材は化学反応により水分を取り込むか、水分を蒸発させる反応であるため、汚泥の臭気に対して無効化で逆に臭気を発していました。本材はそれらの水分を吸収し、臭いの成分である硫化水素の発生を抑制し、固化反応の進展とともに臭気を軽減していきます。

硬化時間を短縮することでコスト削減

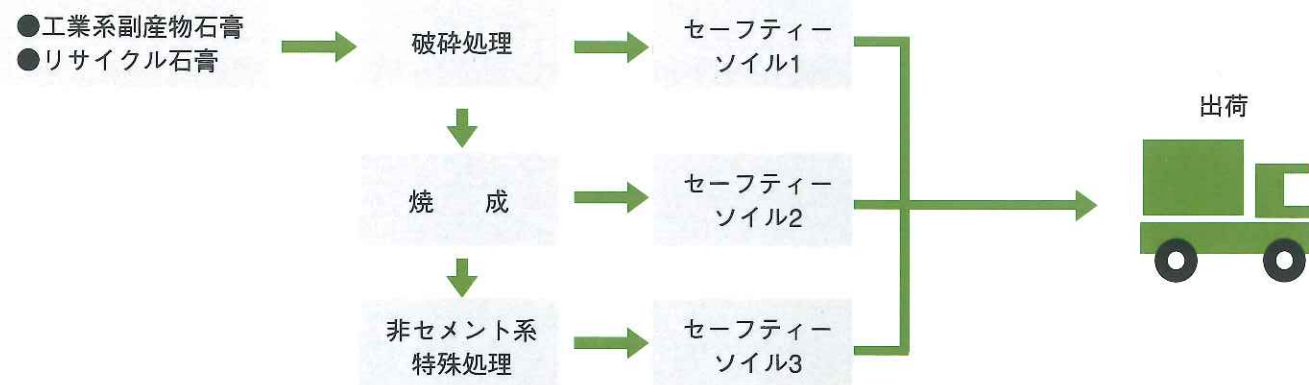
セーフティーソイルの特性は硫化水素の発生を抑制し、硬化までの時間が短く、汚泥の固化処理工程を続けて行うことができます。固化反応が早いので通常の養生工程が短縮され、養生スペースの有効効果ができ、底コストで固化改良することができます。

中性の処理土で再資源化

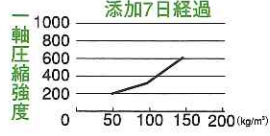
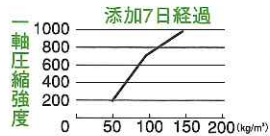
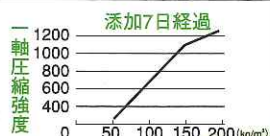
セーフティーソイルは中性の固化材であるため、粒状固化処理によって従来のセメント・石灰による固化乾燥処理にに対しpH濃度をアルカリ性に上げることなく、現泥のpHが変化しませんので植生を阻害することなく、環境・自然に無害なもので土壌環境基準に適合しリサイクルに適した土壌として再資源化されます。

より安心・安全な製品をお届けいたします。

製造工程



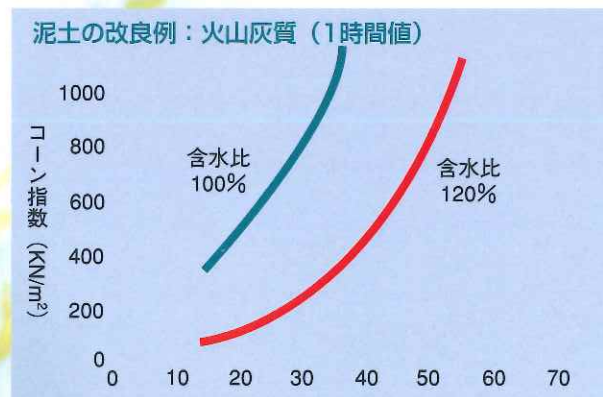
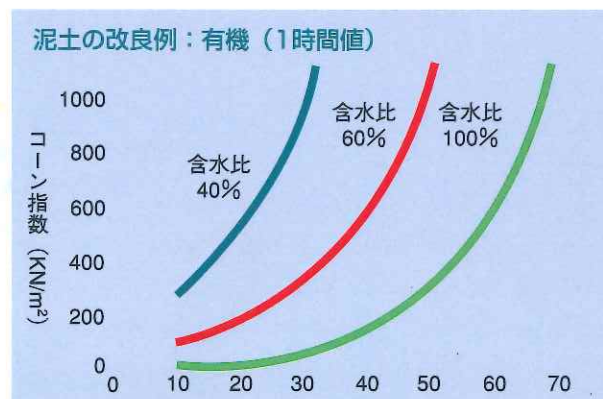
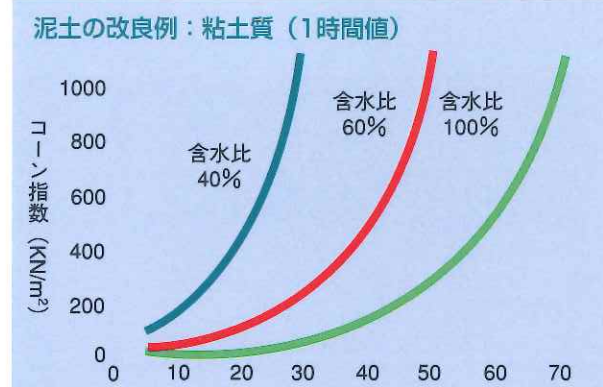
製品案内

銘柄	主原料	機能	PH値	凝結時間	比重	一軸圧縮強度	荷姿
セーフティソイル1 (受注生産)	石膏粉+添加剤	固化	6.0~8.5	5時間以内	0.7~0.9		フレコン (1t)*
セーフティソイル2 (受注生産)	石膏粉+セメント系固化剤+添加剤	粒状固化	7.0~10.5	2時間以内	0.7~0.9		フレコン (1t)*
セーフティソイル3	石膏粉+非セメント系固化剤+添加剤	粒状固化	6.0~8.5	2時間以内	0.7~0.9		フレコン (1t)*

*荷姿 (1tフレコン詰) のその他搬入方法・袋詰めなどにはお問い合わせください。



配合割合と処理土の強度相関グラフ (室内試験)



参考資料

建設汚泥の分類

分類	性状	主な工法
非自硬性汚泥	含水比が高く、機械式脱水により減量化が可能である。	●泥水式シールド工法 ●連続地中壁工法 ●アースドリル式工法
自硬性汚泥	含水比が比較的低く、機械式脱水が困難である。	●泥水式シールド工法 ●アースドリル式工法
自硬性汚泥	セメント等が混入しており、放置すれば固結する。	●高圧噴射攪拌工法 ●ソイルセメント壁工法 (SMW工法等)

(出典：建設汚泥リサイクル指針)

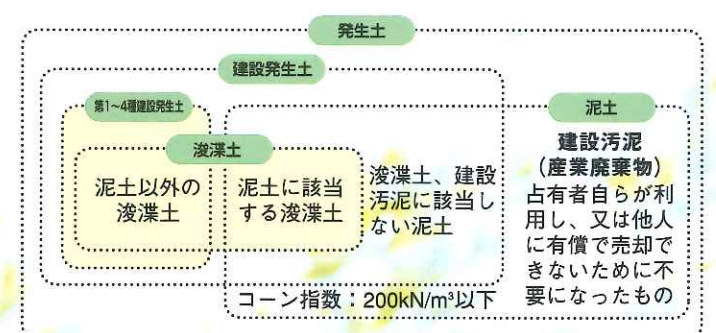
処理土の土質材料としての土質区分 (品質区分) と品質基準値

区分	基準値 コーン指数 qc (kN/m²)	備考
第一種処理土	—	固結強度が高く礫、砂状を呈するもの (焼成処理・高度安定処理されたもの)
第二種処理土	800以上	
第三種処理土	400以上	
第四種処理土	200以上	

(出典：建設汚泥リサイクル指針)

セーフティソイルは処理土が土壌の環境基準に適合するように基本的な配慮を行っています。一般的には使用に際して、安全性の適宜に関して事前に配合試験などを行って確認することをお勧めします。

発生土における建設汚泥、泥土、浚渫土の位置づけ



豊かな自然環境を守るのが私たちの使命です。

主な用途

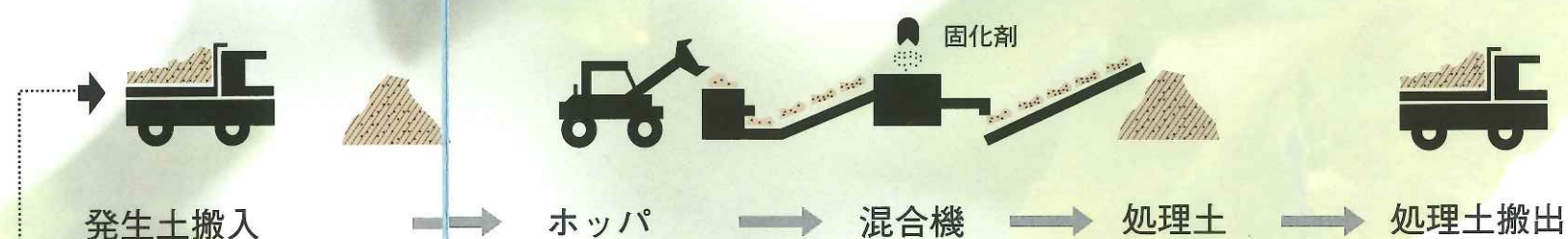
- 軟弱土・泥土・泥水処理
- 河川の浚渫土処理
- 堆積汚泥の土質改良
- 作業用仮設通路地盤の補強
- 路床・路盤の改良（公園、歩道の造成）
- 宅地造成の土質改良、基礎地盤の補強
- その他 様々な用途にご使用いただけます。

施工方法 石灰・セメント安定処理工法と同様の施工が可能です。

浅層処理工法例



発生土処理工法例



Safety Soil